



## 山形県の古木・名木 No.115

### 六榎八幡宮のケヤキ (むつくぬぎはちまんぐうのけやき)

山形市鉄砲町1丁目

六榎八幡宮は、市北の両所の宮と共に、南の六榎八幡として、古くから山形城主や民衆の信仰を集めてきた神社で、山形駅の南南東約900mに鎮座しています。永昌6年(1051年)の前九年の役の際に、源頼義・義家父子が当所の八幡宮にクヌギの大木が6本あるのを見て、「六榎(むつくぬぎ)は陸奥苦を抜く」に通じるものと戦勝を祈願したと伝えられています。

境内には多くのケヤキの巨木が並び立ち社叢を形成しています。旧環境庁の調査では、幹周3m以上が17本、4mを超すものもかなりあります。一番太いケヤキは、社務所側の敷地の東端、玉垣と建物の間に立っているもので、幹周5.9m、樹高2.2mあります。

[山形県森林協会]

[森林やまがた No.146号(2013年7月)掲載]

